

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Risk factors for placenta accreta spectrum: findings from the Japan environment and Children's Study

和文タイトル: エコチル調査データを用いた癒着胎盤のリスク因子についての検討

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC pregnancy and childbirth

年: 2019 月: 卷: 頁:

筆頭著者名: 経塚標

所属UC名: 福島UC

目的:

癒着胎盤は母体の生命にかかわる重大な合併症ですが、そのリスクは不明といわれています。今回エコチル調査の結果から、癒着胎盤と関連のある母体背景を調べました。

方法:

2011年から2014年のエコチル調査データを用いて、癒着胎盤のある例と癒着胎盤のない例とで、前置胎盤、生殖補助医療、喫煙状況、帝王切開の回数、子宮奇形/子宮腺筋症/子宮内膜症/子宮筋腫の有無、母体年齢、流産回数を比較しました。またその後多変量解析を行い、癒着胎盤発症との関連を調べました。

結果:

90,554人の妊婦が解析対象となりました。そのうち癒着胎盤があったのは202例でした。解析により、前置胎盤、生殖補助医療、喫煙、2回以上の反復帝王切開、子宮奇形が癒着胎盤の発症と関連していました。

考察: (研究の限界を含める)

今回の調査では子宮奇形が初めて癒着胎盤と関連していると報告しました。今回の解析方法での限界点について、癒着胎盤の診断基準が完全に把握できていないこと、子宮奇形がどの種類の奇形なのかまでは把握できていないことを考慮しなくてはなりません。また、いままで従来関連があるといわれていた、子宮手術の既往等の要素は、質問項目には含まれていないため今回の解析からは除外されています。

結論:

エコチル調査データを用いた多変量解析により、前置胎盤、生殖補助医療、喫煙、2回以上の反復帝王切開、子宮奇形は癒着胎盤のリスク因子であることが判明しました。